

全農薬通報

No. 347

2025年（令和7年）2月28日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・クロップライフジャパン賀詞交歓会
- ・日本植物防疫協会シンポジウム
- ・全農薬安全協各地区会議

◎行政からのお知らせ

- ・食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件等について

◎全農薬ひろば

- ・ポタン



全国農薬協同組合



〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル

TEL：03-3254-4171

FAX：03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail：info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

2025年（令和7年）

- 4月23日(水) 10:30~17:00 第317回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 7月10日(木) 2025年度 農薬シンポジウム in 愛媛
- 7月17日(木) 13:30~17:00 安全協常任幹事会・情報交換会
- 9月18日(木) 10:30~17:00 第318回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 10月上旬 第104回植物防疫研修会
- 10月22日(水) 13:30~15:30 監査会(理事長、監事)
- 10月下旬~11月上旬 第12回農薬安全コンサルタントリーダー研修
- 11月12日(水) 13:00~15:00 第319回理事会
- 11月12日(水) 16:00~18:30 クロップライフジャパン虫供養(浅草寺)
- 11月13日(木) 10:30~12:00 第60回通常総会
- 11月13日(木) 13:00~19:30 創立60周年記念
第48回安全協全国集会・情報交換会
- 12月10日(水) 13:30~17:00 第320回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 12月11日(木) 10:30~12:00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

「植防関係団体」

- 5月14日(水) 令和7年度 クロップライフジャパン 総会
- 6月4日(水) 令和7年度 日本くん蒸技術協会 総会
- 6月11日(水) 令和7年度 農林水産航空協会 総会(予定)
- 6月13日(金) 令和7年度 日本植物防疫協会 総会
- 6月17日(火) 令和7年度 緑の安全推進協会 総会
- 6月17日(火) 令和7年度 残留農薬研究所 評議員会
- 6月17日(火) 令和7年度 全国植物検疫協会 総会



ロウバイ（蠟梅）

花言葉

『奥ゆかしさ、愛情、慈愛』

組合からのお知らせ

1. 2025 年度クロップライフジャパン賀詞交歓会

日時：2025 年（令和 7 年）1 月 7 日（火）12：30～

場所：経団連会館（千代田区大手町）

出席者：鈴木 参事、植草 技術顧問

クロップライフジャパンに団体名を変更して初めてとなる 2025 年賀詞交歓会を開催した。出席者は会員各社の他、農林水産省などの関係府省、（独）農林水産消費安全技術センター、関係団体、報道関係者など約 330 名であった。

小澤会長（三井化学クロップ&ライフソリューション特別顧問）は開会挨拶で次のように述べた。

「世界の作物保護市場は、今後 2028 年まで年率 1.7%で増加傾向にあると予想されている。毎年耕作地面積が減少するなかで、作物保護の重要性を反映したものと考えられ、昨年はカメムシ類が稲や果樹への被害をもたらした。

また、食料・農業・農村基本法が改正され、第 41 条に植物防疫が位置づけられ作物保護の重要性がますます高まっている。「食料安全保障の確立」、「環境に配慮した持続可能な農業・食品産業への転換」、「スマート農業等による生産性の向上」等を進めることにしている。

そのような農業環境の変化も踏まえ、当会は昨年 5 月に日本と世界の食料安全保障、持続可能な農業への貢献、環境にやさしいイノベーションの推進、安全の先にある安心な食生活を楽しめる社会を目指し、新ビジョンを策定し、安全性と環境に配慮しつつ、農作業の省力化のための新規剤、スマート農業や総合防除に利用できる有効な資材やソリューションの提供に努めていきたい。

また、同会の活動について、農薬の安全性と、作物の安定生産に果たす農薬の役割を、多くの方々に知っていただくことが重要課題であると考え、小学生向け学習漫画、さらに有名配信グループとコラボした YouTube 動画も配信して、若い世代や知識探求層といわれる方々に作物保護の重要性や農薬の役割への理解が広がることを期待している。」

続いて農林水産省消費・安全局の安岡局長が来賓代表として挨拶、乾杯の発声は岩田浩幸副会長（日本農薬代表取締役社長）、中締めは的場稔副会長（シンジェンタジャパン取締役会長）がそれぞれ務め、盛会のうちに終了となった。



挨拶される小澤会長



安岡局長



岩田副会長



的場副会長

2. 日本植物防疫協会シンポジウム

「農家にとってのIPM実践の意義を考える」

日時：2025年1月16日（木）10：00～17：30

場所：日本教育会館一ツ橋ホール（東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）

形式：会場での参加(200名)、オンラインでの参加（635名）

参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関、普及指導機関、独立行政人、大学、JA、農薬企業、防除機企業および関係団体

趣旨：我が国の農業の生産力向上と持続性の両立を実現するために化学農薬だけではなく様々な手法を組み合わせた総合防除(IPM)の取組を推進・拡大することが期待されている。一層のIPM推進ためにはIPMに資する技術開発、指導する立場のIPMの考え方、さらに農業現場において農家が実践するIPMへの理解が一致することが必要と考える。本シンポジウムでは、国、都道府県、農薬メーカー防除コンサルタント、農家それぞれの視点からIPM推進・実践に関する意見を頂き、現場でのIPMの普及についての課題を考える。



開会挨拶：早川 理事長

「現場目線」を共通するキーワードとして病害虫防除に関する課題を設定し、また、総合討論に時間をかけて議論・理解ができるだけ深まるように企画した。9月のシンポジウムでは「農業現場が求める病害虫防除の情報とは何か」と題し、ICT等の急速な発達により多種多様な情報が発信されている中で、農業生産現場で必要とされている情報について、様々な立場の方々からご意見を頂き、今後の病害虫防除に係る情報提供の課題について考えた。今回のシンポジウムでは、我が国の農業の生産力向上と持続性の両立を実現するために、化学農薬だけではなく様々な手法を組み合わせた

総合防除（IPM）の取組を推進・拡大することが期待されていることから、IPM 実践の意義について現場目線で考えたいと思いテーマを決定した。IPM 推進のためには技術開発、指導する立場の IPM の考え方、さらに農家が IPM を実践する意義等、IPM に対する理解の一致が必要であるため、国、都道府県、農薬メーカー、防除コンサルタント、農家それぞれの視点から IPM の推進・実践に関するご意見を頂き、現場での IPM の普及についての課題を考えたい。」と挨拶された。

プログラム

(1) 予防と予察に重点を置いた総合防除の推進について

農林水産省消費・安全局植物防疫課 春日井 健司 氏

(2) 岐阜県における IPM 推進への取り組み

岐阜県農政部農業経営課 渡辺 博幸 氏

(3) 最新のデジタル技術を取り入れた総合防除の提案

バイエルクロップサイエンス株式会社 渡辺 賢 氏

(4) IPM の普及上の課題と矛盾のない提案

株式会社 Field styled Lab. 柿元 一樹 氏

パネラーによる情報提供・紹介

(1) 熊本県玉名地域のトマト栽培における IPM の推進

玉名農業協同組合 森川 由浩 氏

(2) 虫守りのピーマン栽培 一土着天敵の特性を生かした IPM の実践一

かめのご農園 岡本 啓伯 氏

(3) 孺恋村キャベツ栽培における総合防除(IPM)について

孺恋村農業協同組合 黒岩 宗久 氏

(4) 千葉県船橋市のナシ栽培における IPM の推進

植草果実園 植草 学 氏

総合討論

生産者に合わせ普及を進める。農業経営の視点を認識して取り組む。関係機関等と協力して、生産者に寄り添った指導。指導者の育成、先進的なデジタル技術の活用等、多くのご意見を頂き、情報交換を行った。

協会は、頂いた意見を受け、現場に対して何ができるかを考えていく、と総合討論を締めくくり、閉会とした。

3. 2025年度 中国・四国地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月4日（火）11：00～16：25

開催場所：オークラホテル丸亀（丸亀市）

出席者：栗原理事長、田中理事（中国地区長）、喜多理事（四国地区長）、金井理事、組合員37名、賛助会員17名、事務局2名、講師等6名
計66名



金井 理事

定刻になり、司会の金井理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：四国地区長 喜多 理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



栗原 理事長



地区長 喜多 理事

- ・安全協活動について（2025年事業計画等）：
中国地区 村田 常任幹事（三笠産業株）
四国地区 住江 常任幹事（アグリビジネス高知株）



村田常任幹事

- ・指導農薬の説明：
プリグロックスL安全対策協議会
五井 伸明 様（OAT アグリオ株）
クロルピクリン工業会
谷 三奈 様（南海化学株）



住江常任幹事

・「植防関係及び農薬関係行政の情勢について」

中国四国農政局消費・安全部農産安全管理課 酒井 信行 様
野中 美智 様



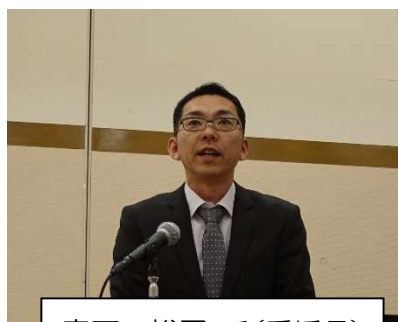
酒井 氏（農政局）



野中 氏（農政局）

・「近年問題となっているカンキツ害虫防除対策」

愛媛県農林水産研究所果樹研究センター
病理昆虫室 主任研究員 宮下 裕司 様



宮下 裕司 氏（愛媛県）

・「かんきつドローン防除の効果と課題」

香川県農業試験場
府中果樹研究所 主席研究員 生咲 巖 様



生咲 巖 氏（香川県）

・農薬安全コンサルタントリーダーへ認定書の授与は、大寺 佑典 氏（カネコ種苗(株)広島支店）が欠席のため、紹介のみ行われた。

・閉会挨拶：中国地区長 田中 理事

安全協幹事の皆さんに受付等をお手伝いいただきました。ありがとうございました。



田中 理事

4. 2025年度 近畿地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月7日（水）11：00～16：25

開催場所：大阪ガーデンパレス（大阪市淀川区西宮原）

出席者：栗原理事長、金田監事（地区長）、橋爪理事、組合員10名、
賛助会員16名、講師等5名、事務局2名
計36名

定刻になり、司会の橋爪理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

・開会挨拶：近畿地区長 金田 理事



地区長 金田 理事

・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長

・安全協活動について（2025年事業計画等）：
近畿地区 金田理事（近畿地区常任幹事兼務）



栗原 理事長

・指導農薬の説明：
プリグロックスL安全対策協議会 浅井 紀博 様
（シンジェンタジャパン(株)）
クロルピクリン工業会 新美 達生 様
（事務局長）

・「農薬行政を巡る状況」
近畿農政局消費・安全部農薬管理課
山本 くるみ 様



山本 氏（農政局）

・「大阪府における害虫発生状況とその防除」
大阪府立環境農林水産総合研究所
食と農の研究部 防除グループ
研究員 溝手 舜 様



溝手 氏（大阪府）

- 「コマツナで発生したうどんこ病（新病害）と大阪府の耐性菌問題」

大阪府立環境農林水産総合研究所
食と農の研究部 防除グループ

研究員 田中 貴幸 様



田中 氏（大阪府）

- 農薬安全コンサルタントリーダーへ認定書の授与
栗原理事長より認定書の授与
- 農薬安全コンサルタントリーダー挨拶 辰巳 勝哉（株高岡屋）



栗原 理事長 辰巳 氏

- 閉会挨拶：橋爪理事



橋爪 理事

5. 2025年度 東海地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月6日（木）11：00～16：25

開催場所：メルパルク名古屋（名古屋市東区葵）

出席者：栗原副理事長、鈴木理事、村上理事、青木理事、
組合員28名、賛助会員14名、講師等7名、事務局2名
計55名

定刻になり、司会の村上理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：鈴木 地区長
- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



栗原 理事長



司会 村上 理事



鈴木 地区長

- ・安全協活動について（2025年事業計画等）：
東海地区 田中 安全協常任幹事
（東海物産（株）三重支店）



田中 常任幹事

- ・指導農薬の説明：
ランネット普及会 講習ビデオ
プリグロックスL 安全対策協議会 神戸 基 様（OAT アグリオ（株））
クロルピクリン工業会 新美 達夫 様（事務局長）
- ・「農薬及び植物防疫関係行政を巡る状況」
東海農政局消費・安全部農産安全管理課
村山 真一 様
松川 恭 様



村山 氏（農政局）



松川 氏（農政局）

- ・「静岡県における病害虫発生状況」
静岡県病害虫防除所 所長 青野 守 様

- ・「斑点米カメムシ類の発生状況」
愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部
病害虫防除室 閏間 貞雄 様

- ・「イネカメムシの防除対策について」
愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部
病害虫研究室 石川 博司 様



青野 氏（静岡県）



閏間 氏（愛知県）



石川 氏（愛知県）

- ・農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与

栗原 副理事長より認定書の授与
農薬安全コンサルタントリーダー
に認定された

千田 直樹（東海物産(株)名古屋支店）

三浦 蔵人（イノチオプラントケア(株)）



千田 氏、栗原 理事長、三浦 氏

- ・閉会挨拶：青木理事

6. 2025年度 北陸地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月13日（木）11：00～16：15

開催場所：石川県地場産業振興センター新館（金沢市鞍月）

出席者：木幡副理事長、中村理事（地区長）、組合員48名、賛助会員9名、
講師等5名、事務局2名
計66名



地区長 中村 理事

定刻になり、司会の中村理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：東海・北陸地区長 中村 理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：木幡 副理事長
- ・安全協活動について（2025年事業計画等）：

富山県 家城 安全協幹事
（株）石沢商事

石川県 本崎 安全協幹事
（東海物産（株）北陸支店）

福井県 宮越 安全協幹事
（株）上田五兵衛商店

- ・指導農薬の説明：

プリグロックスL 安全対策協議会

吉田 浩之 様（ソグ エンガ ヲパ ソ（株）

クロルピクリン工業会

新美 達夫 様（事務局長）



木幡 副理事長



富山県 家城 幹事



石川県 本崎 幹事



福井県 宮越 幹事

- 「植物防疫及び農薬関係行政の情勢について」

北陸農政局 消費・安全部

農産安全管理課 覺間 誠 様



覺間 氏（農政局）

- 「近年発生が目立つ病害虫の特徴と対策について」

福井県農業試験場 病害虫防除室 室長 小谷 佳史 様

- 「抵抗性雑草および難防除雑草の現状」

日本植物調節剤研究協会 試験研究部第一研究室 室長 半田 浩二 様



小谷 氏（福井県）



半田 氏（植調協会）

- 閉会挨拶：中村理事



安全協幹事の皆さんに受付、資料配布等をお手伝いいただきました。
ありがとうございました。

7. 2025年度 東北地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月18日（火）11：00～16：15

開催場所：ホテルモントレ仙台（仙台市青葉区中央）

出席者：栗原理事長、池田理事（地区長）、組合員27名、
賛助会員16名、講師等5名、事務局2名
計52名

定刻になり、司会進行の金子安全協幹事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：東北地区長 池田理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原理事長



司会 金子氏



地区長 池田 理事



栗原 理事長

- ・安全協活動について（2025年事業計画等）：
鈴木 常任幹事（㈱ケーエス）

- ・指導農薬の説明：

プリグロックスL安全対策協議会

中村 公久 様(OAT アグリオ株)

クロールピクリン工業会

新美 達生 様（事務局長）

- ・「植物防疫及び農薬行政をめぐる最近の動きについて」

東北農政局消費・安全部農産安全管理課

高橋 光治 様



鈴木 常任幹事



高橋 氏（農政局）

- 「東北地域の害虫発生動向と東北農研の病害虫研究」

農研機構東北農業研究センター

植物防疫研究部門 下田 武志 様



下田 氏(農研機構)

- 「水稲作、畑作の問題雑草とその防除」

日本植物調節剤研究協議会

東北研究センター 佐々木 政彰 様



佐々木 氏(植調協会)

- 閉会挨拶：水沢農薬(株) 佐藤 剛 社長



佐藤 剛 氏

安全協幹事の皆さんに受付、資料配布等をお手伝いいただきました。
ありがとうございました。



8. 2025年度 関東・甲信越地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月19日（水）11：00～16：25

開催場所：東京ガーデンパレス（文京区湯島）

出席者：栗原理事長、伊藤監事（関東地区長）、佐藤友紀理事（甲信越地区長）、
組合員32名、賛助会員23名、講師等6名、事務局2名
計66名

定刻になり、伊藤地区長より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：関東地区長 伊藤 理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



地区長 伊藤 理事



「挨拶と全農薬の概況報告」 栗原 理事長

- ・安全協活動について（2025年事業計画等）：
関東地区 永岡 常任幹事（株栗原弁天堂 栃木支店）
- ・指導農薬の説明：
プリグロックスL 安全対策協議会
井川 真一 様（シンジェンタジャパン株）
クロルピクリン工業会
朝比奈 和雄 様（日本化薬株）



永岡 常任幹事

・「植物防疫及び農薬関係行政について」

関東農政局 消費・安全部 農産安全管理課

(植物防疫関係) 清水 雄哉 様

(農薬関係) 片岡 明宏 様



清水 氏 (農政局)



片岡 氏 (農政局)

・「栃木県におけるカメムシ類の発生状況と防除対策」

栃木県農業総合研究センター 環境技術指導部防除課主査 小林 誠 様

・「水稻新品種育成の動向について」

農機構作物研スマート育種基盤研究領域

オーダーメイド育種基盤グループ長 後藤明俊 様



小林 氏 (栃木県)



後藤 氏 (農研機構)

・ 農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与

栗原理事長より認定書の授与

農薬安全コンサルタントリーダーに認定された

大熊 聡 氏 (カネコ種苗(株)千葉支店)

木下 貴博 氏 (海野薬品(株) 欠席のため代理に授与)

鈴木 章二 氏 (株アグログリーン)

渡部 哲明 氏 (東海物産(株)新潟支店)



大熊 氏、木下 氏の代理(飯島 氏)、栗原 理事長、鈴木 氏、渡部 氏

- 閉会挨拶：甲信越地区長 佐藤 友紀 理事



地区長 佐藤 理事

9. 2025年度 全農薬・安全協地区会議・農薬技術研修会（北海道地区）

開催日時：2025（令和7年）年2月20日（木）10：00～16：50

開催場所：札幌自治労会館 3階中ホール（札幌市北区）

出席者：木幡 副理事長（北海道農薬卸協同組合理事長）、組合員47名、
賛助会員30名、講師等12名
計90名

- ・全農薬の概況報告：木幡 副理事長



木幡 副理事長（北海道農薬卸協同組合理事長）

- ・指導農薬について：

プリグロックスL安全対策協議会 岡 篤延 様（OAT アグリオ(株)）

クロルピクリン工業会 新美 達生 様（事務局長）

- ・安全協北海道地区会議：安全協北海道支部

○ 研修会

- ・開会挨拶：北海道農薬卸協同組合 木幡 理事長

- ・「農薬をめぐる最近の動向について」

農林水産省消費・安全局
農産安全管理課農薬対策室
鶴居 義之 様



農薬対策室 鶴居 氏

- ・「無人航空機による少水量散布等の新しい農薬施用技術について」

講師 一般社団法人 日本植物防疫協会 事業推進企画部 次長 舟木 勇樹 様
(オンライン)

• 農薬安全コンサルタントリーダー認定書の授与

木幡 副理事長より認定書の授与

農薬安全 CL に認定された

金井 貴之 氏 (株)サングリン太陽園

福田 圭祐 氏 (株)サングリン太陽園



福田 氏、木幡 副理事長、金井 氏

• 「令和7年に特に注意を要する病害虫」

「令和6年度に新たに発生を認めた病害虫」

地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場

病虫部長 小松 勉 様

• 挨拶：北海道農政部生産振興局技術普及課

課長補佐 高谷 泰範 様

• 閉会挨拶：北海道農薬小売商組合理事長

寺岡 英明 様

10. 2025年度 九州地区会議

開催日時：2025（令和7年）年2月26日(水)11：00～16：25

開催場所：熊本空港ホテルエミナース（熊本県上益城郡益城町田原）

出席者：栗原理事長、安武理事（地区長）、今村理事、組合員42名、

賛助会員14名、講師等8名、事務局2名

計69名

定刻になり、司会の神岡氏（グリーンテック㈱）より
開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。



司会 神岡 氏

- 開会挨拶：九州地区長 安武 理事
- 挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



地区長 安武 理事



栗原 理事長

- 安全協活動について（2024年事業計画等）：
九州地区 山内 常任幹事（グリーンテック㈱）

- 指導農薬の説明：

プリグロックスL安全対策協議会 井川 真一 様
(シンジェンタジャパン㈱)

クロルピクリン工業会 事務局長 新美 達生 様



山内 常任幹事



フリスク安全対策協議会
井川 氏



クリルピクリン工業会
新美 氏

・「農薬行政を巡る状況」

九州農政局消費・安全部農薬管理課

和田 慎也 様(植防関係)

矢野 愛子 様(農薬関係)



和田 氏 (農政局)



矢野 氏 (農政局)

・「最近話題の病害虫対策～異常と言われる気象の中で考えること～」

宮崎県西諸県農林振興局 (農業改良普及センター)

農業経営課長 黒木 修一 様

・ 「今後求められる土壌消毒に関連した技術」

国立研究開発法人 農研機構 農業環境研究部門

化学物質リスク研究領域 有機化学物質グループ 小原 裕三 様様



黒木 氏 (宮崎県)



小原 氏 (農研機構)

- 農薬安全コンサルタントリーダーへ
認定書の授与
栗原 理事長より認定書の授与
春末 智哉 氏
（グリーンテック(株) 南福岡営業所）
緒方 健志郎 氏
（ヒノマル(株)）
平川 智 氏
（カネコ種苗(株)鹿児島営業所）
農薬コンサルタントリーダー挨拶



栗原 理事長、 春末 氏、 緒方 氏、 平川 氏

- 閉会挨拶：今村 理事



今村 理事

11. 第 103 回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント資格） 報告

安全協農薬安全コンサルタントの資格試験となる植物防疫研修会（日本植物防疫協会主催）の第 103 回が下記のとおり開催された。

この研修会は全国農薬協同組合、クロープライフジャパンの関係者及び植物防疫に携わる方々が受講し、今回は全国から 52 名が受講し、このうち全農薬組合員からは 24 名の受講となった。

1. 研修会実施内容

- (1) 日時：2025 年 2 月 3 日(月)13:30 ～ 7 日(金)15:30
- (2) 研修生：55 名
- (3) 講師：農林水産省消費・安全局の担当官、農林水産消費安全技術センター（FAMIC）、農薬検査部の専門官、農研機構の各部門の専門家、薬剤に関する内容については、農薬会社や日本植物調節剤研究協会の専門家。
カリキュラムは 100 回と同様
- (4) テキスト：各講師作成の講義パワーポイントの印刷物、「農薬概説」
- (5) 交流会： 地下小会議室で実施

2. 実施結果

- (1) 体調不良でホテルへ薬を取りに 1 時間退出した受講者が 1 名いたが、修了試験は全員参加。
- (2) マイクの接触不良で 10 分ほどスピーカーから音が出なかったが、受講者から苦情はなかった。
- (3) 試験結果は次項のとおり

3. 修了試験結果

- (1) 受験者：55 名 合格者：55 名

4. 試験結果に基づき、合格者には日本植物防疫協会理事長名による「修了証」を授与された。

また、修了者には全国農薬協同組合理事長名により「農薬安全コンサルタント認定証とバッヂ」を授与した。



行政からのお知らせ

1. 「みどりの食料システム戦略」における「化学農薬使用量（リスク換算）」の2023年実績値

令和6年12月27日
農産安全管理課 農薬対策室

「みどりの食料システム戦略」における「化学農薬使用量（リスク換算）」につきましては、2030年までに10%低減、2050年までに50%低減の目標を掲げ、各般の取組を進めているところですが、令和6年12月27日に農水省において江藤農林水産大臣以下が出席して、「みどりの食料システム戦略本部」を開催し、化学農薬使用量（リスク換算）の2023年実績値を公表いたしましたので、お知らせいたします。

実績値は基準年（2019年度）と比べ15%減となり、2030年目標を達成しておりますが、取組の効果だけでなく、資材費上昇による買控え傾向も寄与したと考えておりますので、引き続き取組の推進にご協力いただきますよう、お願いいたします。

化学農薬

- ・2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す。
- ・2030年目標：化学農薬使用量（リスク換算）の10%低減を目指す。

調達
生産
加工・流通
消費

③定量・定性評価

基準値 (基準年)	各年度ごとの実績値					中間目標	最終目標
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2030年	2050年
23,330 リスク換算値 (2019農業年度)	21,230 リスク換算値 (約9%低減)	22,227 リスク換算値 (約4.7%低減)	19,839 リスク換算値 (約15.0%低減)			リスク換算で10%低減	11,665 リスク換算値 (50%低減)
算定方法	【数値の出典】農林水産省が農薬メーカー等に対し毎年行っている調査の結果に基づき算出					【算出方法】 Σ「有効成分ベースの農業出荷量」×1×「リスク換算係数」×2 ※1 農林水産省が毎年調査し、FAOに「使用量」として報告する値 ※2 ADI（許容一日摂取量）に基づき、区分毎の係数を適用	
目標に対する実績（現状）の評価	<p>【進捗度合】現状値（2023農業年度）は基準値（2019農業年度）に比べ約15.0%低減</p> <p>【課題】2030年目標を達成しているものの、リスクの低い農薬への切替などの取組の効果だけでなく、資材費上昇による農薬の買控え傾向も寄与したと考えられることから、引き続き対策を進めていく必要がある。</p> <p>また、低リスクの土壌くん蒸剤を始めとした新規農薬の開発には時間がかかることから、それまでの間、引き続き、既存技術の活用等により、総合防除を展開する必要。</p> <p>【改善点】令和5年度補正予算（みどりの食料システム戦略緊急対策交付金）及び令和6年度当初予算（みどりの食料システム戦略推進交付金）において、農業生産現場における総合防除の推進に必要な土壌くん蒸剤の代替技術等の産地に適した技術の検証、栽培マニュアルの策定等の取組を支援。併せて、全国の総合防除キャラバンの開催や総合防除実践マニュアルの公表などによる総合防除の推進、化学農薬を使用しない有機農業の面的拡大、リスクのより低い化学農薬や抵抗性品種の開発等を推進。</p>						

下記HPにて本年度の取組実績、KPIの速報値等が公表されています。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/honbu.html>

2. 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件等について

令和7年2月10日

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件等につきまして、別添のとおり令和6年9月18日付け消食基第195号消費者庁次長通知及び令和7年2月10日付け消食基第70号消費者庁次長通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和6年内閣府告示第111号）、食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示（令和7年内閣府告示第24号）及び食品衛生法第十三条第三項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして内閣総理大臣が定める物質の一部を改正する告示（令和7年内閣府告示第25号）により、下記の農薬の残留基準値及び対象外物質が設定、改正又は追加されました。

記

1. 以下の品目について、食品中の残留基準値を設定又は改正
イソピラザム（ネクスター）、テフルベンズロン（ノーモルト）、
フルオキサストロピン（ディスアーム）、プロチオホス（トクチオン）、
フロニカミド（ウララ）、プロフラニリド（プロフレア）
ヘキサコナゾール（アンビル）、ベンチアバリカルブイソプロピル（マモロット）
ポリオキシシンD亜鉛塩メタフルミゾン（ポリオキシシン）、
キノフメリン（アイーネ）、シフルメトフェン（ダニサラバ）
ピリベンカルブ（ファンタジスタ）、MEP（スミチオン）、
フロメトキン（ファインセーブ）
2. 対象外物質に発芽スイートルーピン抽出たんぱく質を追加

別紙・消費者庁通知等詳細は以下より

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/notice/assets/standards_cms208_240918_01.pdf

3. 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示について

令和7年2月28日

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件等につきまして、別添のとおり令和7年2月28日付け消食基第130号消費者庁次長通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示（令和7年内閣府告示第27号）により、下記の農薬の残留基準値が改正されました。

記

イミシアホス（ネマキック）

カルタップ（パダン）

チオシクラム（リーフガード、エビセクト）

キノキサリン系（モレスタン）

1-ナフタレン酢酸ナトリウム（ターム、アークランド）

フルオピラム（オルフィン）

別紙・消費者庁通知等詳細は以下より

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/notice/assets/standards_cms208_250227_01.pdf

残留農薬等基準の設定及び改正に関する通知等

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/notice

（参考）消費者庁食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会審議等結果

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/positive_list/meeting_report

1. 乾田直播での計画的雑草防除を支援する「ノビエ葉齢判定アプリ」を公開

2025年1月31日

概要

農研機構はスマートフォンで利用できる乾田直播栽培時のノビエ葉齢判定アプリを公開しました。

乾田直播栽培の雑草対策では、水稻の出芽から入水前までの乾田期に、主要な水田雑草であるノビエの葉齢が大きくなり過ぎないうちに除草剤を散布することが推奨されます。しかし、水稻が出芽する時期は気温が高く、ノビエは早く生長してしまいます。そのため、効率的に葉齢判定と生長予測を行う技術が必要でした。そこで、誰でも簡単にノビエの葉齢を判定し、その後の生長も予測できるアプリを開発しました。

本アプリでは、機械学習に基づく画像解析によって、水田に生えているノビエの写真から葉齢を判定します。さらに、ほ場付近のアメダス情報をもとにその後の生長を予測し、2.5葉期、3.5葉期、4.5葉期に達する日も予測できます。そして、アプリで示される生長の予測結果から、除草剤の散布時期を計画することが可能です。

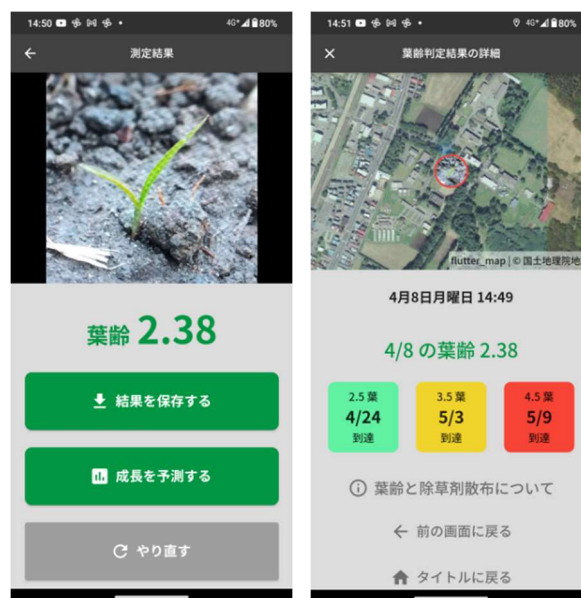
Google Play または App Store で「ノビエ」と検索、もしくは以下のQRコードのページよりダウンロードしてご利用ください。

本アプリの利用により、乾田直播栽培におけるノビエの効果的な防除が期待できます。

Google Play



App Store



葉齢判定(左)と生長予測(右)の結果を示した画面例

2. 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの水稲移植栽培での除草剤による防除技術を開発

2025年2月5日

概要

ナガエツルノゲイトウは特定外来生物に指定されている多年生雑草で、河川や水路、水田などに侵入・定着します。国内では1989年に初めて見つかри、2024年12月現在で東北以南の26都府県で分布が確認されています。

ナガエツルノゲイトウは節を含む茎や根からの栄養繁殖によって増殖、まん延し、水田に侵入すると競合による水稲の減収や収穫作業の阻害を引き起こします(図1)。さらに、代かき後の落水時などに再生能力を持つ節を含む茎や根の断片が水路に流れることで、周囲に拡散する懸念があります。ナガエツルノゲイトウは、水中や暖地では葉や地上部の茎等(以下、地上部)も枯れずに越冬することがありますが、霜が降りる地域では、通常12月以降に地上部が枯死し、主に地下茎や根(以下、地下部)の状態で越冬します。侵入した水田での早期防除と分布拡大防止対策が求められている一方、水田におけるナガエツルノゲイトウの有効な防除技術はこれまで開発されていませんでした。



図1 ナガエツルノゲイトウの外観(左)と水田内で水稲と競って草丈を伸ばす個体(右) 白丸はナガエツルノゲイトウを示します。

今回、農研機構、千葉県農林総合研究センター、神奈川県農業技術センターは、ナガエツルノゲイトウに有効な水稲用除草剤とその処理時期を明らかにし、有効除草剤を組み合わせた体系処理により本種を防除する技術を開発しました。具体的には、水稲移植後にピラクロニルを含む除草剤を処理し、ナガエツルノゲイトウ再生始期～

草丈 5cm（水稻移植約 20 日後）または生育期（ナガエツルノゲイトウ草丈 35cm 以下、水稻移植約 40 日後）の時期にフロルピラウキシフェンベンジルを含む除草剤を処理することで、水田に発生するナガエツルノゲイトウが防除できます。本技術では、生産者が管理する水田において水稻栽培期間中に手取り除草などを行うことなく、ナガエツルノゲイトウの地上部の生育を慣行と比べて 10%以下に抑制することができます。さらに、有効除草剤による体系処理を 2 年間継続すると、既にまん延している水田でも栄養繁殖し、かつ越冬する地下部まで防除が可能です。

本技術により、栄養繁殖する断片を生じさせずにナガエツルノゲイトウを防除できることから、本種による水田での雑草害軽減と分布拡大防止が期待されます。

詳細については以下の農研機構プレスリリースを参照してください。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nipp/167657.html

農林水産省と連携して農林水産省ウェブサイト「ナガエツルノゲイトウの駆除対策について」などで発信しています。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/nagae.html

全農薬ひろば

ボタン (牡丹、学名: *Paeonia suffruticosa*)

ボタン科ボタン属の落葉低木。あるいはボタン属 (*Paeonia*) の総称。

名称: 原産地は中国で、中国語の表記も「牡丹」。

栽培: 従来は種からの栽培であったが、戦後に接木が考案され、急速に普及した。苗はシャクヤクを台木に接ぎ木し作られ、鉢植えや台木苗で市場に出回る。春には花付の鉢植えが、秋に苗木が販売される。日当たりと排水の良い環境を好み、膨軟土を使い深く耕して堆肥を施し、高畦にして植え付けすることが適する。夏の西日は避けるのが望ましい。花後は株の衰弱を防ぐため、花首の部分から切り落とし、お礼肥を施す。植え付けや株の手入れは9月下旬から10月下旬が適期。

病害虫: うどんこ病や黒斑病が発生するので花き類登録の殺菌剤で防除する、排水が悪い湿った場所では立枯病、灰色かび病が発生しやすいため栽培環境に注意が必要。虫害としては、幹や枝の分かれ目にカイガラムシ類がつきやすく、見つけしだい歯ブラシなどで除去する。
文化: ボタンは美しさを象徴する植物として古くから親しまれ、さまざまな工芸品や絵画の意匠に用いられてきた。美しい女性の容姿や立ち居振る舞いを「立てば芍薬、座れば牡丹・・・」と形容する。

ボタンとシャクヤクはともにボタン科ボタン属に含まれるが、ボタンは木本植物、シャクヤクは冬期に地上部が枯れる多年生の草本植物である。

(一部 Wikipedia 等より引用)



撮影場所：鎌倉市鶴岡八幡宮
花言葉：『王者の風格』、『富貴』、『恥じらい』、『壮麗』、『誠実』

